

平成20年度
リユースカップ導入実証試験調査
報告書

平成20年（2008年）8月

（財）地球・人間環境フォーラム

はじめに

明治神宮野球場でのリユースカップ実証実験

北海道で平成 20 年 7 月に開かれた洞爺湖サミットでは、地球温暖化への各国の取り組みの必要性が共通認識になると共に、目指すべき低炭素社会では、日本の提唱する 3R イニシアティブの推進が必要であるとの認識が共有された。

本報告は、3R の重要な取り組みの一つであるリユース（再使用）活動を象徴する事例として広まっているリユースカップを、東京の明治神宮野球場でのプロ野球、東京ヤクルトスワローズ対横浜の 3 連戦に導入した実証実験の報告書である。

当財団では、環境省からの委託を受けて、平成 19 年度の事業として「野球場におけるリユースカップ導入促進に関する調査」を実施した。わが国では、サッカー場、音楽イベント、地域のお祭りなどではリユースカップの利用が広まっているものの、数万人単位で観客が集まる野球場においてはいまだ実現していない。そのため、19 年度調査では、球場、球団関係者に対するヒアリング、アンケート調査を通じ、リユースカップ導入の是非、越えるべき課題などの意向調査を実施した。

その結果、各球場、球団とも環境問題への理解は非常に高く、何らかの形で温暖化防止、3R 活動推進への協力、貢献を望んでいることが明らかになった。

その一方で、プロ野球では初めてとなるリユースカップの導入について、観客動員数の多さ、連戦の試合の多さなどから、安全で衛生的な運営が可能なのか、資金面での問題はクリアできるのかなど多くの課題も指摘された。

サミット開会中に行われた明治神宮野球場での東京ヤクルトスワローズ対横浜の 3 連戦（平成 20 年 7 月 8～10 日）では、リユースカップの利用をソフトドリンクに限定するなど、小規模な実証実験でスタートすることになった。

梅雨明け前のナイター戦であったにも関わらず、一日も雨に降られることなく、リユースカップ導入に伴う混乱もなく実証実験は終了した。

ひとえに球場、球団の関係者、飲料メーカー、売店、警備・清掃会社の皆様に全面的なご協力をいただいた結果だった。関係者の連携・協力のもと、一番心配されていた安全でファンサービスの低下につながらない運営ができるのか、という点については、大いに自信を深める実証実験になったと確信している。

あらためて関係者の皆様のご協力に感謝いたします。

平成 20 年 8 月

(財) 地球・人間環境フォーラム

目次

はじめに

明治神宮野球場でのリユースカップ実証実験

第1章	神宮球場における実証試験	1
第1節	背景と目的	1
第2節	実施概要	1
1.	場所及び期間	1
2.	リユースカップの様態	2
3.	対象飲料	3
4.	リユースシステム	4
5.	洗浄・保管	12
6.	広報・周知など	13
7.	利用者アンケート	15
第3節	実施結果	16
1.	販売数	16
2.	回収数、回収率	16
3.	回収システムの運用	17
4.	洗浄・保管および衛生面	18
5.	ごみ、二酸化炭素の削減効果	19
6.	経費	20
7.	利用者の反応（アンケート結果）	21
第4節	ライフサイクルアセスメント（LCA）分析	25
1.	システム範囲と前提条件	25
2.	シナリオ設定	26
3.	環境負荷項目	26
4.	分析結果	26
5.	まとめ	28

第2章 実証事業から見えてきた課題	29
第1節 リユースカップの形状	29
1. 形状	29
2. 重量	29
3. メッセージ	29
第2節 回収システム	31
1. 売店	31
2. 回収所	31
3. 異なるカップの混入	32
第3節 広報・周知	32
第4節 コスト	33
第3章 野球場におけるリユースカップの導入可能性の考察	35
第1節 野球ファンに受け入れられるか	35
第2節 連戦への対応	35
第3節 スポンサーの獲得	36
第4節 選手とファンによる環境意識の向上	37
第5節 自治体やNPOなど多くの関係者の協力が必要	38